

1月13日(月)

信 仰 の 目

聖書朗読 マルコ 5:25~36

「恐れなくて。ただ信じていなさい。」

マルコ 5:36

私はポールという知人と「命の船」という働きを始めたのですが、始めて間もなく、ある村の可愛らしい45歳の女性に出会いました。彼女は、両目とも白内障で視界が非常に狭くなっていました。彼女はシエムレアップという町で目の手術を受けるのにちょうど良い候補であり、私は彼女とのお子さんを連れてその町まで行くことになりました。

まず湖を渡るのにフェリーに乗ったのですが、その時の彼女の信頼には驚かされました。彼女は目がほとんど見えず、自分の村から外へ出たこともありません。さらに、一緒にいたのは彼女の国の言葉も話せない初対面の私であったにも関わらず、支えが必要なときは、そんな私に助けを求めて手を伸ばしてきたのです。

やがて病院に到着したところ、病院側から再度来院するようにと伝えられ、私はとてもがっかりしてしまいました。彼女がもう一度この旅をする勇気はないだろうと思いましたし、しかも、次回は私が一緒に来る事が出来なかったため、一人で来ることになるし、無理だろうと思いました。

ところが、一年後、再会した彼女は、驚くことにその両目が見えるようになっていたのです。彼女の目には命がみなぎっていました。

私はつくづくこう思いました。「これこそ神様が私に求めておられる信仰なんだ」と。自分の将来に何が起こるか分からなくても、ただ神様は私に、無条件に従うことを望んでおられるのだと。

聖歌 424

祈り 親愛なる主よ。これから先の人生を喜びを持って歩みつつ、あなた様の平安と御力を求めて、あなた様が、私の行くべき道を備え、私が成すべきとしておられることを悟ることができるよう。

イエス様のお名前によって。アーメン。

デビー・ピンクリー
カンボジア命の船

今日のカ

2014年1月13日~1月19日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

1月14日(火)

愛を一目一目編む

聖書朗読 マルコ 12:28~34

『心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』

マルコ 12:30

編み物は、表編みと裏編みでできています。編み物のパターンはすべて、この表編みと裏編みの様々な組み合わせからなっているのです。どんなに複雑な幾何学模様ニットもこの二通りの編み方が基礎となっています。私たちの日々のクリスチャンライフも、キリストが語られた、シンプルですが奥の深い二つの戒めが基本にあるのではないのでしょうか。

その二つの戒めにより、私たちは神様と離れずにいることができます。それは、心を尽くし、思いをつくし、知性を尽くし、力を尽くして神を愛すること。そして、隣人を自分のように愛すること。この二つの戒めは、日々の礎です。信ずることも愛からきます。従順も、バプテスマも、信仰も、恵みも、そして、祈りも愛から来るのです。

私たちクリスチャンの働きも愛を表すものです。それはシンプルでもあり複雑でもあります。私たちの働きは愛を礎としています。私たちが愛を示すとき、すべてのことが解決するものです。愛を示すことによって、どんな状況にあっても驚のように高く舞い上がることができるのです。

編み物の経験を多く積んだ人は、「表、裏、表、裏…」などと考えなくても、自然に手が動くものです。私たちが礎となる戒めに心を留めるなら、多くを期待することから来る思い煩いから開放されるでしょう。ただ二つのことだけに目を留めれば良いのです。神を愛し、隣人を愛すること。何と素晴らしいことでしょう。

讃美歌 236

祈り イエス様。私を愛してください感謝します。神様。私を愛してください感謝します。聖霊様。私を愛してください感謝します。私に忍耐を与えてください、あなた様の愛で私を満たしてください、感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジーン・ガン

テキサス州 ネーデルランド

1月15日(水)

変貌した十字架のイメージ

聖書朗読 マルコ 15:33~41

しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。 ガラテヤ 6:14

十字架というものは、囚人が容赦ない拷問を受け釘打ちの刑に遭うことを連想する人々には、恐怖のイメージがあるでしょう。ローマ帝国に対する反逆者、快く思われぬ奴隷、ローマ市民以外の犯罪者などは、社会から追放し彼らの犯罪を食い止めようと、十字架に架けられました。十字架というものは、忌み嫌われ、ひどく嫌悪を感じるものでした。そのようなイメージが変わることを、誰が想像したことでしょう。

イエス様が自ら十字架刑に架けられることを予め話されたとき、弟子達は、ひどく心を悩ませました。その頃イエス様が神の御子であることを悟り始めていたのですが、天の御国と十字架を結びつけることが出来なかったのも当然でしょう

それまで世に知られていた十字架が象徴するものを変える出来事は、天からやって来たのです。この象徴の変化は「時が満ちて」やって来たのです。比類ないほど忌み嫌われるものとしての十字架のイメージが、励ましを与えるもの、そして美しいイメージである救いの象徴へと変えられたのです。

人々が長い間抱いていた、恥辱の象徴から歓喜の象徴へと変えられた十字架のイメージの変貌は、毛虫の変態のようなものとは訳が違います。その変えられたイメージは、他に類を見ないものです。それを成し遂げてくださったお方は他ならぬ神なのです。畏れの思いを持って神の御前に立ちましょう。

讃美歌 343

祈り 父よ。あなたは驚くべきお方です。あなた様の愛の深さは推し測ることが出来ません。私たちを清めてくださるイエス様の血潮を感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アル・コーネル

ウィスコンシン州 ヒルズボロ

1月16日(木)

不信仰を克服するには

聖書朗読 マルコ 16:9~20

イエスは、・・・彼らの不信仰とかたくなな心をお責めになった。

マルコ 16:14

弟子たちへの大宣教命令の背景はとても興味深いものです。イエス様は、想像を遙かに超えた偉大な命令を弟子達にお与えになりましたが、その前に彼らを責められたのをご存知でしょうか。イエス様は彼らの弟子としての地位を取り去ることはなさいませんでした。新たな召しを受け入れ、仕えるようにとおっしゃっています。この命令は、かつてイスラエルの民だけに与えられたものでしたが、今、全世界の人々に与えられています。

私たちが信仰を深める方法の一つとして、信仰の分かち合いがあります。弟子たちは、不信仰な人々と同じ様に疑いを抱き、彼らとともにさらに疑い深くなることもできたでしょう。けれども彼らは頭を垂れ遜って、こう繰り返すことが出来たのです。「信じない人は咎められるだろう。」

神に従おうとするのを妨げる物は何でしょう。完璧な確信が持てるまで待つというのであれば、あなたは、信仰、希望、バプテスマ、そして証の機会を失うこととなるでしょう。イエス様への愛が私たちを駆り立て、それにより主が生きておられることを宣べ伝えることができます。人々、弟子、そして私に対するイエス様の決して変わらぬ信頼によって、私たちはこう叫ぶことができます。「主の慈しみは永久に絶えることがない」と。

聖歌 224

祈り 親愛なるお父様。不信仰な私を助けてください。あなた様のことを語る大胆さをお与えください。イエス様と同じ様に愛を与える者としてください。そして、あなた様の被造物である人々と共に愛を分かち合い、イエス様を崇めることができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

バリー・C・ポイナー
ミズーリ州 カークスビル

1月17日(金)

日々の誘惑

聖書朗読 ルカ 4:1~13

誘惑の手を尽くしたあとで、悪魔はしばらくの間イエスから離れた。

ルカ 4:13

悪魔は極めて執拗で、決して諦めません。イエス様が、ヨルダン川でご聖霊に満たされた後、断食をして祈られるために荒野へ向かわれたその時、悪魔は現れました。あなたがたは、独善的になっているとき、悪魔に弱い存在となります。

悪魔はイエス様の、食べ物、肉体の強さ、豊かさへの欲求、そして神への信仰さえも試そうとしました。人の欲求はピラミッド型になっていますが、食物と身を守る場所を確保することが第一の欲求でしょう。こうした基本的な欲求が満たされると、その他様々な物を所有し、お金、そして支配力を手にしたいという欲望が生まれてきます。結局いずれも心が満たされず、この世と神さえも支配しようと知識を獲得し、その支配の理由付けまでしてしまうような領域へとエスカレートしてくるのです。悪魔はこうした人々の欲望につけこんできます。

イエス様は、40日間食べる物もありませんでしたが、悪魔の誘惑にはひたすら神のみことばによって答えられ、悪魔の甘い誘惑をことごとく退けられました。

私たちは日々悪魔の攻撃に遭い、豊かさ、権力、支配力といった約束に惑わされがちです。私たちが悪魔のまやかしに遭っても、神のことばは現実のもので、真理なのです。

私たちの人生におけるすべての悪は悪魔から来るもの、そしてすべての善きものは神から来るということ覚えておきましょう。

讃美歌 316

祈り 親愛なる主よ。悪魔を退けてくださり、また私たちも悪魔を退けることができる知恵と力をお与えくださり感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

コンスタンス・キー・ロビンソン
テキサス州 アビリン

1月18日(土)

今は完全に

聖書朗読 ルカ 5:17~26

しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。
イザヤ 53:5

皆さんもこれまでイエス様の名を背負い、イエス様のために懸命に生きてこられたことでしょうか。人生は時にチャレンジによってやり甲斐を感じることもありますが、それは骨の折れる困難なものではないでしょうか。あなたの状況を知っている人の中には、ただあなたが苦心しているとしか目に映らない人もいるでしょう。やがてあなた自身も罪に陥って、イエス様が十字架に架かられたことは、果たして自分を完全にしてくれるものだったのだろうかと思いはじめたのではないのでしょうか。あなたがそのような疑いを持つなら、あなたの不完全さを知っている周囲の人達はなおさら疑わずにはいられないでしょう。

私たちが造り変えてくださるのは何でしょうか、どなたでしょうか。あなたは誰に答えを求めていますか。その答えはとてもシンプルです。もしあなたがただ従順に受け入れるなら。私たちがすべてをただ素直に受け入れるなら。病の人を癒し、盲人の目を開かれたあのお方、最も疑い深かった人々のためにさえ命を捧げてくださったあのお方を見上げればよいのです。

私たちが、ただ、イエス様の御顔を見上げ、その目に赦しを見ることが出来るなら。そうです。造り変えていただけるのです。私たちは、傷ついても、幼子のように信頼してイエス様に完全に目を向けるなら、この世の物事は、イエス様のご栄光と御恵みに照らされ、不思議とちっぽけな事と思えてくるのです。そして、私たちは平安のうちに歩みを進めることができ、信仰により、完全な者とされるのです。

讃美 138

祈り 親愛なる父よ。人生には多くの困難が伴います。私たちはいつも物事を落ち着かせようと自分自身に目を向けますが、壊れてしまったものを回復して下さるのはただあなた様だけであることを覚えていられますように。どうか私たちが信仰を強め、あなた様の恵みこそ、私たちの黒い罪を雪のように白くして下さるのだということを、完全に理解できるようにしてください。

あなた様の御子、イエス様のお名前により祈ります。アーメン。

ケイシー・R・マーディス
テキサス州 フォートワース

1月19日(日)

あなたの家はシャロームの家？

聖書朗読 ルカ 10:8~16

それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。
エペソ 2:17

イエス様は、あの70人をお遣わしになられたとき(ルカ10:24)、とても興味深いことを定められました。ルカ10:5にある「どんな家に入っても、まず、『この家に平安があるように』』と言いなさい。もしそこに平安の子がいたら、あなたがたの祈った平安は、その人の上にとどまります。だが、もしいないなら、その平安はあなたがたに返って来ます」というものです。これは普通の挨拶よりずっと素晴らしいものではないでしょうか。

ここで用いられているギリシャ語は“エイレーネ”という言葉で、ヘブライ語のシャロームと霊的な意味で同じ言葉です。イエス様は、あの70人に、神を受け入れる者は、彼らをも受け入れるということを伝えておられたのです。神の平和を望むところではどこでも、イエス様の教えを歓迎し受け入れたのです。それこそ信仰です。問題は、すべての家がシャロームの家とは限らないということです。すべての家が神による平安を求め、享受するわけではないのです。

私たちは自分たちの心と家がシャロームの家であることを望んでいます。つまり、神の平和を求め、主の福音と恵みを信仰により受け入れる家です。扉が閉ざされていたなら、当然、メッセンジャーやメッセージは、どこか他の開いている扉の方へと去ってしまうでしょう。私たちは今日、心と家に主の平和を求めましょう。シャロームの家となりましょう。

讃美歌 298

祈り 親愛なるお父様。私の家をあなた様の家としてください。あなた様と、平和の王の王子であるあなた様の御子の喜ばれるお住まいとしてください。あなた様の恵みと真理をおおいに受ける家としてください。あなた様にとって、私がシャロームの家となることができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

マーク・R・ガイ
カリフォルニア州 ヴァレイホ